

令和元年度 第4回 北海道総合開発委員会計画部会 議事録

日時：令和2年2月12日（水）10：30～11：30

場所：京王プラザホテル札幌 22階 ペガサス

出席者

委員等 山本部長、大賀委員、小林委員、中村委員、矢島委員 5名出席
北海道 黒田総合政策部長、谷内計画推進担当局長
齋藤計画推進課長、堤地域創生担当課長、大矢国土強靱化担当課長
諸岡計画推進課主幹

【齋藤計画推進課長】

お時間となりましたので、ただいまから令和元年度第4回北海道総合開発委員会計画部会を開会いたします。本日の進行を務めます計画推進課の齋藤でございます。よろしくお願いいたします。開会に当たりまして、総合政策部長の黒田からご挨拶申し上げます。

【黒田総合政策部長】

総合政策部長の黒田でございます。皆様には、大変お忙しい中、第4回目の計画部会に御出席を賜りまして、心より御礼を申し上げます。

総合計画の中期的な点検・評価につきましては、これまで、この計画部会におきまして委員の皆様方の御審議をいただいたところでございます。北海道の更なる発展にとりまして、今後の数年間というのは非常に大事な時期を迎えるわけございまして、その中で今後の展開を示す重要な役割を担う審議の場と理解しているところでございます。

前回の部会でお示ししました報告書の原案では、各施策分野を横断的に俯瞰する視点ということで、4つのCというキーワードを挙げさせていただいております。一つはチャンス（好機）、もう一つはコオペレイション（連携）、さらにチャレンジ（挑戦）、そしてクリエイション（創造）という四つの共通の視点をお示しさせていただいているところでございます。

足元の北海道を見てみますと、皆様方も御承知のとおり、4月24日に白老町にウポポイがオープンいたします。また、7月、8月には、東京オリンピックのサッカー、競歩、マラソンの競技が予定をされているところです。また、今年の前半期でございますけれども、日ロの地域姉妹都市交流年の開会式が、北海道で開催されることが決まり、さらに、先月末には、道がこれまで誘致を進めてきた、アドベンチャートラベルワールドサミットの2021年の本道開催が内定したところでもあります。加えて、札幌市が2030年度の冬季オリンピック・パラリンピックの国内候補に決定したというニュースも入ってきております。これだけの大きな出来事が現実化しつつあるというのは、これまでになかった状況だと考えてございます。道として、こうしたチャンスをしっかりと取り込んで、我々の今後の更なる発展に生かしていこうという取組をこれから全力で行う、そのための、今後の方向性を示すものが、この度の中期的な点検・評価だと考えているところでございます。前回部会でいただきました御意見につきましては、本日、推進状況報告書の案に可能な限り反映するよう努めさせていただいたところでございます。

本日の計画部会、それと引き続き午後から、総合開発委員会の方でも御審議をしていただくこととなります。さらにそこでの御意見踏まえまして、推進状況報告書の内容を更に精査して、計画後半期の取組を一層強力で推進をしてみたいと考えておりますので、引き続き委員の皆様方の御指導、御協力をお願いしまして、簡単ではございますけれども、冒頭の御挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【齋藤計画推進課長】

本日の会議は公開での開催とさせていただきます。また議事録につきましては、後日、

道のホームページに発言者のお名前入りで公開させていただきます。次に、本日の会議資料ですが、次第、出席者名簿、配席図のほか、資料1と資料2-1、報告書の概要ですね、それと資料2-2を配布しております。そのほかお手元には、今年度開催しました総合開発委員会と計画部会の資料を綴ったファイルのほか、閲覧用といたしまして、総合計画の冊子を御用意しております。配布漏れ等がございましたら事務局までお申し付けください。

なお、本日は、部会委員7名のうち過半数を超える5名の御出席いただいておりますので、計画部会が成立することを報告いたします。それではここからの進行については山本部長にお願いいたします。

【山本部長】

ありがとうございます。それでは議事を進めてまいります。はじめに今日の部会の終了時間ですけれども、目処を11時30分頃の1時間程度と考えておりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日の審議事項は、「北海道総合計画推進状況報告書（案）について」、この一点でございます。最初に事務局から説明をお願いいたします。

【諸岡計画推進課主幹】

計画推進課の諸岡でございます。よろしくお願いいたします。それではお手元でございます資料1、資料2-1、2-2に基づきまして御説明させていただきます。

最初に資料1をご覧ください。こちらは前回の計画部会でも御説明させていただきました、今回の点検の検討経過でございます。一番下の2月12日が、本日御審議いただく会議でございます。午前中に計画部会で御意見をいただきました後、午後から同じ建物で会場を移動いたしまして、第2回総合開発委員会において御審議いただくこととなります。そのあと本日の会議でいただきました御意見を踏まえまして、年度内に成案として決定していくこととしております。

それでは資料2の方を御覧ください。資料2-1の方でございますけれども、こちら本報告書（案）の概要をまとめたもので、後ほど御覧いただくことといたしまして、本日は資料2-2の冊子の方に基づいて御説明させていただきます。

前回の計画部会で原案としてお示しいたしまして、委員の皆様から様々な御意見をいただきましたけれども、いただいたご意見をもとに山本部長と御相談させていただきまして、必要な修正を行ったものが今回お示ししております資料2-2の報告書案となります。前回の原案からの主な修正点を御説明いたしますと、最初に表紙ですけれども、総合計画の計画期間がわかるよう、表紙の右下に平成28年度から令和7年度という計画期間を追記いたしました。続きまして8ページ、四角で囲った文章のうち上から四つ目となります。一番下の「道内の転出入状況では」で始まる文章の最後の部分に、本道からの転出超過数を記載しております。原案では2018年の数字でございましたけれども、最新の数字として2019年の状況に置き換えております。結果といたしましては2018年と比べまして2019年は223人の改善となっております。続きまして右側の9ページ、下から二つ目の「道内7空港の一括民間委託により」から始まります文書となりますけれども、道内の大きな動きといたしまして、道内7空港の一括民間委託の動きがございますので、そうした動きにより地域活性化が期待される旨を追記させていただきました。続きまして10ページとなります。六つ目一番下の文章の真ん中辺り、原案ですと「縄文遺跡群」と表記しておりましたが、正式な名称といたしまして「北海道・北東北の縄文遺跡群」と、正式な表記に修正いたしました。次は60ページになります。推進イメージ図の右下にございます7つの将来像の図でございますけれども、前回の原案では2019年のところの下に置いてあったのでございますけれども、7つの将来像自体は今の姿ではなくて、将来の目指す姿でありますことから、時間軸を意識いたしまして将来の位置であります右側に

配置いたしました。また、同じ 60 ページの図の上側にございますウポポイ開設ですとか、新千歳空港発着枠拡大といった将来の動きにつきましては、正式に決まったところは時点修正をかけるなど適宜修正を行わせていただいております。説明は以上となります。

【山本部長】

ありがとうございます。総合計画の中期的な点検・評価につきましては、これまでの計画部会の議論を踏まえた、この推進状況報告書の案として提示されているわけでございます。先ほど事務局からも説明ありましたように、午後からの総合開発委員会に、この推進状況報告書の案、今説明いただいた文書ですけれども、これを報告することとなります。この内容については、前回までの部会で各委員の皆様からたくさん御意見をいただきまして、説明のありましたように、可能な範囲で反映していただいたと考えております。

ということで、この会議の目的ですけれども、今回提示いただいたこの案について、改めて御意見、御感想を伺ってまいりたいと考えております。また、来年度以降の計画推進に当たって特に留意すべきことなど、いろいろお考えがあると思います。先ほど説明がありましたように、この会議が今年度最後の計画部会になりますから、この機会に、どういう点でも構いませんので、皆様から順に一言ずつ御意見を頂戴したいと考えております。まとめの会でもありますので、こちらから順に指名させていただきたいと思っております。順番ですけれども、大賀委員から始まりまして、小林委員、中村委員、矢島委員、最後に私の意見とまとめをしたいと思っております。そういうことで進めていただきますのでよろしくお願いいたします。ということで、大賀委員からよろしくお願いいたします。

【大賀委員】

大賀でございます。感想を述べさせていただきたいと思っております。御存知のように、今、コロナウイルスの影響で海外からの観光客の数が減少しているというニュースが報じられておまして、大学も影響を受けております。具体的には、本学で春休みに予定をしておりました中国での短期研修プログラムがキャンセルとなりまして、また、実は今日から台湾からの研修生を約 17 名受け入れているのですけれども、そちらもキャンセルしたいという学生が複数出まして、実施できるかどうか非常に不安だったので、札幌は特に危険なことではないし、安心して来てください、皆さんの安全面に配慮したプログラムを行います、という案内をすることで、幸いキャンセルも撤回されて、全員来てくれることになりました。そこで感じたのは、観光だけ、海外からの来日者だけに依存するような取組ですと、今回のように世界でいろいろな事態が起きたときに大きな影響を受けるのだと感じました。

今回、総合開発委員会に関わることになりまして、北海道としていろいろな形での取組、道内に住んでいる住民の方のこともそうですし、それから、海外から来られる方との交流ですとか、観光客の行き来などのような取組も、そのうちのひとつとして取り組んでいることを知るようになりまして、こういうふうに総合的にいろいろな取組を考えていくことが、北海道の力といたしますか、それを強めるためにとても大切で、何か一つのことばかりに注力するのでは、その力を生かすことができないと感じるようになりました。ですから今後とも、この北海道総合計画というものを通じて、北海道の総合的な力が伸びていって、例えばこういうふうに、何かのきっかけで浮き沈みがあったときに、それに耐え抜いていけるような、そういう北海道であってほしいと今回感じました。

【山本部長】

どうもありがとうございます。続いて小林委員お願いいたします。

【小林委員】

今まで申し上げたことと重複するかもしれませんが、御容赦いただければと思います。まず

21 ページですが、ここに保育士に関する記載があります。保育士不足で定員までの受入れができないということがあります。資格・経験を持っていないながら働いていない潜在保育士の方がかなりいらっしゃるということです。こうした方を掘り起こし復職に結びつけることが重要ですので、引き続きそういった支援をお願いしたいというのが1点目でございます。それから27ページ、買い物や通院などの支援ということに関連して、買い物難民の件ですけれども、道内のコンビニで179市町村のほとんどに出店をして、損はしないまでも収益性を抑えて地域の生活を支えているというようなどころもありますので、こういった店舗あるいは会社へ何らかの支援策をも検討されてはいかかかということと、右下のところに「バス運転手確保」というところがあります。バスそれからトラックのドライバーが非常に不足しており、かつ高齢化しているという現状で、私も道経連としても、国に対して、大型二種免許の受験年齢の引下げを要望しております。現状は21歳以上なのですが、これを19歳程度まで引き下げてほしい。適切な安全対策を講ずることが前提ですが、高卒の方などの若年層が、運転手に志望しやすくなるようなことをぜひ御検討いただきたい。国の方でもそういう動きになってきていますので、ぜひ道の方でもお願いしたいということです。それから28ページの「防災上重要な公共施設の整備、維持管理」でございます。これも非常に重要な部分で、高度成長期に整備されたいろいろなインフラが非常に老朽化しているという現状がございます。また、道内の市町村における国土強靱化地域計画の策定が非常に遅れているということでございます。去年6月ぐらいの時点で、策定済なのが179市町村の中で17市町村、予定しているところが57市町村しかありません。市町村では、土木関係の技術者が非常に不足しているということですので、道として技術面での支援をぜひやっていただきたいというところがございます。

それから37ページでございますが、オリパラの関係で、ここにあるように、道産の食材の供給に関する情報共有を推進していった道内の食のPRを進めていくという情報共有も大事ですが、ぜひ具体的に取り組んでいただきたいということでもあります。それから次の38ページでございます。スマート農業の普及推進は重要ですのでぜひお願いしたいということ、それと下の方に醸造用ブドウの生産拡大に向けた苗木の安定確保というところがございますが、道内のワイナリーが41にまで増えており、そういった中で、苗木の不足が深刻です。昨年度経連で聞き取りをしましたが、余市と仁木だけでも10万本の苗木が不足しているというアンケート結果も出ております。現在進めていただいております隔離検疫代替制度の早期実現と、現在フランスが対象となっている適用対象国の拡大もぜひ御検討いただきたいというところがございます。それから、44ページの人材不足のところですが、道内の経済産業界でも、労働力が非常に不足しているという状況でございます。道経連でも昨年、いろいろ調査研究いたしまして、これをどうやって増やしていくか。例えば、道内の都市部の就業率を、全国の政令指定都市で就業率がいい上位5市ぐらいの平均まで引き上げるとかですね。もちろん女性や高齢者、若者・離職者のUIJターンとか、それでも足りない場合の外国人材の受入体制の強化、こういったもので労働力を確保していかないと、経済界・産業界は本当に持たないという状況まで来ておりますので、ぜひこの辺りの対策の強化もお願いできればという点でございます。多岐にわたりましたが以上でございます。

【山本部会長】

ありがとうございます。何かありますか。

【齋藤計画推進課長】

御意見につきましては、今日の議事録にまとめますし、いただいた御意見は各部にきちんとフィードバックさせますので、よろしくお願いたします。

【山本部会長】

ぜひこういった御意見を反映させてこれからの総合開発委員会の御議論を深めていただければと思います。ありがとうございます。続いて中村委員からお願いいたします。

【中村委員】

このように文章を変えたという発表がありましたので、耳を澄まして聞いていたのですけれども、前回私が修正していただきたいと申し上げた点が反映されていなかったことは残念な気がいたします。その一つとして、チャンスのところで、インバウンドの「一層の加速化」という表現は適切ではないのではないかという意見を述べました。私は一貫して、道民の安全・安心な暮らしを維持することを前提に発言しております。「道民の安心・安全な暮らしを維持することを前提にした道産食品の輸出拡大、インバウンドの受入れを図っていきます」にしてはいかがでしょうかという意見を述べたのですが、委員会があった後の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、やはりインバウンドに頼るといような方向を加速化しようとしている日本政府の思惑は考え直した方がいいのではないかと思うのです。そういう意味で、今曲がり角に来ていることは間違いないのですよ。インバウンドの一層の加速化を図るとい表現は、適切ではない時期に来ているという思いをいたしましたので、もう一度お伝えしたいと思います。

それからもう1点、今お話しているのは54ページの四つのCのところですね、前回の意見と重複するところなのですが、反映されていなかったもので、再度強調したいということで意見を述べます。「連携」のところなのですが、「外国人の方々が活躍しやすい多文化共生社会の実現に取り組むなどとして、海外の成長力を取り込み、地域の活力の向上を図っていきます」という部分について、前回意見を述べました。ここで大事なことは、主語を誰にするかということなのです。「日本人が」とか、「日本のために」とか、「道民が」とか、「北海道のために」とか、そこをきちんと踏まえた上で、政策を進めなくてはならないと思います。そういうことで、いらっしゃる外国人の方が違和感なく幸せに過ごしていただくということが大切なのですが、そこが行き過ぎると、私たちは何のために働き、税を払っているのか、ということなのです。トランプ大統領じゃないのですが、日本人ファースト、道民ファーストなんです。そのために税を使う、これが大事なので、そこを念頭に、政策を、あるいは政策を表現する文章を作るべきです。これはどの国も当たり前なんです。ともすると、戦後の教育で、日本人は何かに貢献する、世界に貢献するという「念」がちょっと強すぎる。もっと私たち自身のことを大事にする政策を第一に考える、見直す時に来ていると思います。そういう意味で、この文章は適切ではないということを前回も言いました。ここは「北海道の魅力を戦略的に発信するとともに、多様な主体と連携協働を図り、内外の知恵を取り入れて地域の活力の向上を図っていきます」というようにしたほうがよいという意見を前回述べました。あとは繰り返しになりますので述べませんが、特にこの二つを再度お伝えしたいと思います。

【山本部会長】

今の御発言について、いくつか質問めいたところもあるのですが、いかがでしょうか。

【齋藤計画推進課長】

御意見ありがとうございます。前回の計画部会でいただいた御意見でございますが、内部でも検討いたしまして、例えば多文化共生社会については、最初の経済社会情勢の変化等にもございますが、今外国人の方が多く来られている、北海道に住まれているといえますか、多く労働者として来られている。道でも昨年8月に外国人相談センターを開設するなど、外国人の方が違和感なく生活することが重要だという視点のもとに、多文化共生社会ということ掲げておりますので、御理解いただければと思います。

【山本部会長】

ありがとうございます。かなり重い意見もございましたので、それも含めて、今後の議論の参考にさせていただければと思います。それでは続きまして矢島委員からお願いいたします。

【矢島委員】

この報告書の全体については特に私は異存ございません。その前提で、感想ということで、2点ほど申し上げたいと思います。

今回、この委員会に加わって議論させていただいた中で強く感じたことは、今北海道が抱えている、待ったなしの課題がいくつかありますけど、それはいずれも、日本全体の問題であり、あるいは世界共通の課題であり、その中で、北海道もやはり同じテーマを抱えているということに改めて認識させられたところです。こういう問題はいずれも北海道独自では解決できない問題でもあります。だからといって、例えば国の方針であるとか政策を待っているだけではやはり駄目だと思いました。北海道はやはり、他の地域に先駆けて、あるいは世界に先駆けて、その課題解決の先進地になる、それくらいの気構えを示せるかどうかということであり、そのポテンシャルを北海道は持っているのではないかとも思いました。

あらゆる分野で、北海道らしさ、あるいは北海道の独創的な特徴を生かした、いわゆる北海道スタイルを確立する、そのことによって、そういう課題解決のモデルケースとして、北海道が外から見られるようになればよいと思います。その辺の踏み込みの議論が足りなかったかな、という気がいたしました。人口問題について言いますと、確かに北海道の人口問題は深刻であり、日本の最大の課題ですけれども、世界規模で言うと、むしろ人口爆発の方が深刻な話だと思うのですよね。そういう中で、これからどのようにして北海道、日本の人口減少問題を解決していくかという視点がとても大事であって、そういう地球人としての視点で物事を考えていくことが、まさに、足元の北海道の問題の解決にも繋がるというような思考回路と言いますか、議論の仕方がこれから必要だと思いました。

もう一点は、ジェンダー平等ということを再三申し上げてきたのですが、ジェンダー平等は他のテーマと違って、すべてのテーマ・分野を貫いているテーマであり、そういう意味でとても大事な課題だと思いました。今の日本の社会の閉塞状況の根っこにあるのが、まさに男女格差ということだと思っております。

女性支援とか、女性が輝くとか、そのための施策というか方向性は、この報告書の中に取り込まれているんです。ただ気になるのは、頑張っている女性を支援する、応援するというスタンスに留まっている感じがするんですね。応援する前にもっとやることがあるのかな、と。つまり、制度であったりルールであったり、あからさまな差別みたいなようなものを改めることがまず大事なんだと思います。一例を挙げると、大学の医学部の入学試験で男子を優遇していたことが大変な問題になりましたけれども、ああいう時代錯誤のようなことがいまだに行われているという問題をまず解決しないとイケない。従来の男女の役割分担の延長線上で女性を応援するということに留まっていたら、問題の解決につながっていかないのかな、と。そういう意味での本気度がこれから問われていくと思いました。

【山本部会長】

ありがとうございます。何かコメントはありますか。

【齋藤計画推進課長】

御意見ありがとうございます。ごもっともと思っております。先週 SDGs のセミナーがあったのですが、ジェンダー平等についてはそこでも重要な視点として挙げられておりました。今回の共通視点の「創造」の中にも掲げておりましたが、十分に意識して取り組んでまいりたいと考えております。

【山本部会長】

ありがとうございます。最後に私から、意見といいますか感想を述べさせていただきます。いくつかの論点がありまして、一つ気になっているのが、農業の目標が、カロリーベースの食料自給率で書かれています。これは食料安保に関わることなので大変重要ですが、主語が誰かという話です。おそらく農業経営者から見たときに大事なものは、カロリーベースの生産額ではなくて、経済としての農業ですから、やはり農業生産額とか付加価値額を書いていただきたい。最初にこういう指標設定をしているので、今回はよいと思うのですが、今後のことを考えるならば、ぜひ農業者の視点を考えてほしいと思っております。生産量を 260%にすることが目標だとすると、おそらく農家の所得は減るのだと思います。今年は野菜が安いということが何を物語っているかということなんですね。ぜひそういうことも考えていただきたい。

あともう一つ、今話題になっているインバウンドの急激な減少ということがあります。例えば観光産業にしても、長期的にはやはり多様化して、リスクに対する構えを取らないといけないことは当然だと思います。短期的な選択と集中ではなくて、ぜひ長期的なバランスを考えていただきたい。ただ一方で、私は経済人ではないのだけでも、今ここに存在する需要を取り込むこと、道内の経済に反映させることは重要だと思う。加速化ということではないのだけでも、インバウンドの取組は、今後の経済において非常に重要だと思うので、取組の仕方を考えるということではないかと思っております。

あと、今は非常にクリティカルな状況に見えるのですが、北海道という視点で見るときには、4つの視点が出ていますけれども、チャンスの方が大きいという印象を持っています。私はこの会議に結構長く関わっており、何となく暗い話が多かったのだけれども、どうもここ数年を見ていると明るい話題が多いんですね。もちろん明るい話題が行き過ぎると駄目になるということはあるのだけれども、これはチャンスなんだという視点を持っていただいて、積極的にチャレンジする、そういう方向性を、ぜひこの会議で出していければと思っております。

最後にもう一つだけ。私は、北海道の立ち位置を、報道とか、海外のニュースなんかを見ながら、冷静に見ているのですよね。今、一番評価される行動が何かということなのですが、リスク回避ということが多く言われていますが、私は「公平」ではないかと思うんです。つまり、北海道のディシジョン（決定）ですとか、道民のやることがフェアであること。北海道、日本がフェアであるというのは当然なのだけれども、その中でも北海道はフェアであると。ルールに則って公平に行動する土壌があるということ。各国から多くの人がある状況において、それが見えてきたら、北海道と接した人たちの記憶に残るのではないか。そのフェアネスというのは、おそらく不変だと思うんですよね。どうも見ていると、どうやったら儲かるかということで、マスクを買い占めるとかそういうことを考える人がいるのだけれども、北海道はぜひ安定して、ちょっとしたことで動揺しない、長期的な視点に立って正しい行動をしてほしい。そのように感じております。

報告書全体については、私もその作成に参加しておりますので、ここで文句を言ったら、何をやっているんだということになりますので、これについては、この先の手続に進めてまいりたいと思っております。

【齋藤計画推進課長】

ありがとうございます。確かに、食料自給率はカロリーベースではなくて生産額ベースで見ると、いろいろな見方があると思います。この報告書の 41 ページには、食品ですが、付加価値額を載せています。きちんと利益を上げるという視点も重要と考えております。おっしゃったことも含めて、今後、こういった方向性を大事に考えてやっていきたいと思っております。

【山本部会長】

小林委員、どうぞ。

【小林委員】

今まで各委員の皆様、それと山本部会長の御意見も伺い、まさにそのとおりだと思っております。ただ、言おうかどうか迷っていたのですが、今回の計画の見直しに当たって、北海道の課題は、かなりしっかり説明されていると思うんですね。まずは人口減少。全国に比べて10年早く人口減少、少子高齢化が進展しているのが北海道の現状で、このままいくと、おそらく労働生産年齢人口も、2015年に320万人ぐらいだったのが、2045年には4割減の190万人強ぐらいに落ち込んでいく。そういうことになると、放っておくと北海道の経済規模はかなり縮小していく。そのために何をやっていくかということが、北海道のこれからの課題だと思います。一つは、労働者が減っていくので、労働生産性を高めていくこと。これはここにもあるとおり、例えばSociety5.0の進展などによる新たな技術、スマート農業なんかもそうですけれども、そういうのを駆使して、労働生産性を高めていくということが必要でしょうし、もう一つは、北海道のGDPが減っていく中で、それを維持し、さらに拡大していくためには、世界を相手に稼いでいくということが非常に重要ではないかと思えます。世界を相手に稼ぐにはどうしたらいいのかということになると、一つはやはり北海道の強みである食を生産し、輸出していく。道の当面の目標として年間1500億円の食の輸出というものもありますので、そこに向かってしっかりキャッチアップして、それを達成していくということ。それともう一つはやはり観光。北海道の強みは、観光だと思います。世界に向かって観光で稼ぐ。これは日本全体でもそうですが、稼ぐということになると、世界の人口が増えている、あるいは富裕層も増えている中で、インバウンドの需要をしっかり取り込んでいくということが、極めて重要であると思っております。日本の中で競争するというのではなくて、世界から稼ぐということがこれからの北海道の生きる道ではないか。そのために何をやっていくかというところをもうちょっと鮮明に打ち出すほうが良いのかな、と書いてあるとは思いますが、今後の方向性としては、そこをもう少し強調して書いていただいた方がよいと感じています。そうすることによって、北海道の現状はこうです、これから北海道が生きていくためにはこういう施策があります、これに向かって、道民、一緒になって頑張っていきましょう、というような中身にされた方がわかりやすいという感じがしています。もちろん隘路があると思えます。今回のようなパンデミック的なものの中にはあるでしょうし、いろいろなことが、今後も出てくると思えますが、そこは解決すべき課題であって、目標がぶれてはいけないと感じています。

【山本部会長】

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

【齋藤計画推進課長】

ありがとうございます。

総合計画は御存知のとおり長期的な視点のもとで方向性を示す計画ということで、今、小林委員がおっしゃった、食や観光といった北海道の強みを生かしていくこと、インバウンド、それから、労働生産性、Society5.0を含めて、今回の中間点検でも方向性を掲げておまして、具体的な取組については、観光や農業など、いろいろな分野別の計画がございますので、そちらで反映させて、実効性を確保してまいりたいと考えております。

【山本部会長】

ありがとうございます。はい。

【谷内計画推進担当局長】

今の小林委員の御意見に補足をさせていただきますと、やはり北海道の強みとして、食と観光ということがございます。60ページをちょっと御覧いただきたいのですが、我々としては、今回の計画の点検・評価を通じて、この先の将来をどういうふうにつなげていく

かということを考えていく中で、ロードマップ的に、2030年の新幹線札幌延伸、あるいは、冬季オリパラも実現できれば、という事を見据えていく中で、やはりいろいろなことがベースになってくる。一つは人口減少・高齢化の進行ということ。それに対して、人材不足、多文化共生、関係人口の拡大ですとか、それとやはり海外との交流拡大、それと Society5.0、こうしたものが、多様な分野のベースとなる。この視点を各分野に横串として刺しながら、上に書いているような様々な機会を活用して、北海道の未来をつくっていく、このような考え方を今回お示しさせていただきたいということです。

53 ページにも、今後の計画の推進方向として、やはり北海道の強みである食や環境、観光といったものを活かしながら、安全で安心して暮らし続けることのできる社会をつくっていくということも書かせていただいております。あとは具体的な7つの将来像というものが55 ページ以降にあるのですが、これは、各分野を総合計画に掲げた7つのめざす姿ごとに括って、どのような北海道を目指していくかということでございますが、やはりその中でも、今後の方向性としましては、例えば56 ページにあるような北海道ブランドの強化拡大ですとか、こうしたことを、推進方向としてより強く明示させていただきながら、それぞれの分野を串刺しする4つの視点を掲げております。

こうした視点をそれぞれの分野に串刺しさせていきながら、今後の北海道につなげていくような取組を行っていきたいと考えております。以上でございます。

【山本部会長】

ありがとうございます。何か御発言された方がおられましたらお願いいたします。よろしゅうございますか。

—「はい」と呼ぶ者あり—

本日皆様から頂戴した御意見につきましては、可能な限り最終の報告書に反映していただきたいと思うのですが、この後、13時から総合開発委員会がございまして、それまでの間に修正はできないので、大変恐縮ですけれども、総合開発委員会には、今ここで御意見をいただいたこの報告書で報告したいと思っております。この形で御意見ございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

—「はい」と呼ぶ者あり—

ありがとうございます。それでは、この資料の2-1と2-2、北海道総合開発計画の推進状況と今後の展望、それと概要ですね、これに基づいて報告させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

続きまして議事2「その他」でございますが、これについて何かございますか。

【齋藤計画推進課長】

委員の皆様は任期2年間をお願いしております平成30年度期の任期が、来月末までとなっておりますので、今期の計画部会は今回が最後となります。昨年のSDGs推進ビジョンや今年度の総合計画の中期的な点検評価に対しまして、様々な視点から貴重な御意見をいただきました。改めて御礼申し上げます。事務局からは以上でございます。

【山本部会長】

ありがとうございます。御質問等は特になしでございますね。

はい。皆さん、本当に御苦労様でございました。それでは私の司会は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

【齋藤計画推進課長】

山本部会長はじめ委員の皆様、どうもありがとうございました。閉会に当たりまして総合政策部長の黒田から一言御礼申し上げたいと思います。

【黒田総合政策部長】

御礼を申し上げたいと思います。最初の総合開発委員会を含めると、5回にわたって御議論をいただきました。ここからまた2時間ほどお時間をいただいて、さらに御審議いただくということになるかと思えます。今回も本当に本質を突いた御指摘をいただきましたので、今日の御指摘をどこまで表現できるか、午後の議論も踏まえて、部会長にも御相談の上、もう少し工夫をしていきたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

今、事務局からもお話がございましたけども、委員の皆様の任期が2年間ということで、現体制としての計画部会は、本日が最後ということでございます。本当に2年間にわたりまして、貴重な御意見いただきましたことに、改めて御礼を申し上げたいと思います。来年度この計画部会をどのように進めていくかは今まさに検討中というところでございますけども、来年度以降、今回まとめたこの方向性といいますか、点検結果をもとにして、また御意見を伺っていくようなことにしていきたいと思っております。

今回の点検に当たり事務局で議論していたのは、道庁内はもちろんなのですが、道民の皆様にもぜひ見ていただきたいということで、取りまとめとしては結果的にはボリュームが多くなったのですが、ビジュアルなところを大分強調してまとめたのが、今回の報告書でございます。ぜひこれをまた、道民の皆様にも強く発信していきたいと思っておりますので、どうぞ皆様には引き続き御指導いただければと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。簡単ではございますけども、御挨拶とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

【齋藤計画推進課長】

以上をもちまして、令和元年度第4回北海道総合開発委員会計画部会を閉会いたします。この後、当初申し上げましたとおり、13時から3階の雅で、北海道総合開発委員会を開会いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

(了)